

令和3年度防府市総合教育会議議事録

1 開催日時 令和3年10月26日(火曜日) 午後1時55分

2 開催場所 防府市立玉祖小学校 視聴覚室

3 出席者

防府市長 池田 豊

防府市教育委員会

教育長 江山 稔

委員 小松 宗介

委員 村田 敦

委員 田村 純子

委員 温水 祥代

4 会議に参加した者

学校教育課長 山本 純也

学校教育課係長 中原 育代

学校教育課指導主事 西村 淳

玉祖小学校長 大谷 圭二

玉祖小学校教務主任 兼 廣 徹

玉祖小学校教諭 久保田 大貴

5 会議に従事した職員

教育部長 杉江 純一

教育部次長 石丸 典子

教育総務課長 尾中 克則

教育総務課長補佐 岸野 恵美

午後2時20分 開会

○教育部長（杉江純一） それでは、ただいまから令和3年度防府市総合教育会議を開催いたします。

初めに、防府市長から御挨拶を申し上げます。

○市長（池田 豊） 改めまして、こんにちは。

本日は総合教育会議を玉祖小学校で開催することとなりました。また、委員の皆様には、平素から防府市の教育行政に多大なるお力添えを賜りまして、心から感謝申し上げます。

本日は玉祖小学校の大谷校長先生、また授業を見学させていただきました久保田先生、本当にお世話になりました。タブレットの配備について、予算は付けておりましたけれども、

本日、実際に初めて子どもたちが使うところを見て、ひと安心したというのが正直な感想でございます。

私は、市長になって3年半経ちますけれども、今も毎日7時20分には、子どもたちの通学を見守っております。その中で、かばんが重たいだろうとか、交通事故が危ないなど思っております。今年当初予算で、学校から250メートルの範囲内の信号機のない横断歩道を、緑にカラー舗装することとさせていただきました。しかし、今年6月28日の千葉県八街市の事故を見て、半径500メートルの範囲まで広げるとともに、それ以外の危ないところも併せて、本年度中にカラー舗装することとしました。添付資料にありますとおり、玉祖小学校の校区でも、10か所の横断歩道をカラー化したいと思っております。

それから、私は子どもは平等でありたいという強い思いを持っておりますので、その観点から、教育環境の整備には力を入れていきたいと思っております。

本日は昨年に引き続きましてICT教育が議題ということでいろいろお話をお伺いしたいと思っております。さきほどロイロノートを活用した授業を見させていただきました。おそらく率直な皆さんの御意見があると思っておりますので、しっかりと伺いできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○教育部長（杉江純一） ありがとうございます。

それでは、本日の議事に入ります。

議長につきましては、防府市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、市長にお願いします。

○市長（池田 豊） それではよろしくお願いいたします。

防府市のICT教育ということで、今、現場で授業を見ましたので、忌憚のない御意見を聞かせていただけたと思います。よろしくお願いいたします。田村委員いかがですか。

○委員（田村純子） 授業を見学させていただきありがとうございました。教科書でもいいのではないかなと思ながら授業を見ていたら、ここでロイロノートが活躍するんだなというポイントがよく分かりました。あれを防府市の教職員がマスターし、効果的に使うと、自分の課題がみんなの課題になって広がっていくところや、タブレットを通じた関わりも見られ、お隣さんとの関わりも見られました。ノートもぼっち取れておりましたし、すばらしいと感動いたしました。

しかしながら、全ての教職員がこれだけのハイレベルの授業ができるのか、まわりの教職員があのような授業を見て発奮して、やらされる研修ではなく、よし、自分もやってやろうというような思いになってくれたら防府の子どもたちは幸せだなと思いました。ありがとうございました。

○市長（池田 豊） 田村委員からありましたけど、実は教育長と話をしたときに、初めは学年進行で段階的に導入するというお話がありました。しかし、段階的ではなく全員へ配備して、すべての教員がやらなくてはいけないと。そして、学校の先生が理解しないと子どもたちに指導できないということで、教員のスキルの底上げをするために、プロジェクトチームを組んで1年ほど取り組んでいます。今まさに田村委員がおっしゃるとおりで、学校の先生がしっかりとマスターするというのが大切だと思います。どうもありがとうございます。村田委員はいかがでしょう。

○委員（村田 敦） 今日の授業を見ていまして、非常に子どもたちが使い慣れているなど、本当に驚きました。僕は個人的にはパソコンというの「習うより慣れよ」だと思っていて、興味を持ってどんどん自分たちでやっていけば、放つといってもできるだろうと思っています。けれどもこの短期間に使いこなせているのは、やっぱり先生の教え方がいいのだろうなあと思います。

ロイロノートについてはあまり詳しくないのですが、生徒にしっかりと自分の考えを持たせたり、あるいは答えたり発表したりというのは今日の形でよく分かりますが、授業の中で、知識を教えないといけない、与えなければいけないということがあると思いますが、そのような場面では、先生が生徒に対して教え込むような形になるのでしょうか。そうすると、その反応というか、どうしても一方的になりやすい気がするのですが、そういった点でこのロイロノートというのは、どういう工夫がされているのでしょうか。

○市長（池田 豊） 山本課長。

○学校教育課長（山本純也） ありがとうございます。

ロイロノートを使うことを置いておいて、教育というのは御承知のとおり、教師が教えるという場面が必ずあります。それを、いかに子どもたちが学びたいことにしていくかというところが長年の教育の課題であり、面白いところと理解しております。村田委員さんが言われるように、今日のように大型提示装置を使って、ある文書を出してそれで写真とセットにして理解を促すということも必要だと思います。ですから、ロイロノートで大型提示装置に提示するというのもあるし、ロイロノートを使わなくても写真を撮って、必要な資料を提示するというのもできます。個人に何か必要な知識を与えたいということであれば、個別にその子にだけ資料を送るということもできるので、子どもの求めに応じて必要な知識を与えるとなれば、個人的な資料提示ができるというのはロイロノートの利点かなと思います。全体でやるときは大型提示装置、個別に何か必要な知識を与えるときはロイロノートを使うというところがよさであると感じております。

○市長（池田 豊） 温水委員どうですか。

○委員（温水祥代） 授業を見学させていただいて、ロイロノートとは関係ないのですが、すごくクラスの雰囲気がいいなと思いました。こんなにたくさんの方に見られているのに、子どもたちが自由に意見を言い合っていてすごいなと思いました。先生との信頼関係が築かれているのだろうなあとすごく感じました。

タブレットですけれども、私が思っていたよりもみんなすごく使いこなせていて、先生が言った画面をすぐ開いたり、何かを提出するのもみんなちゃんとできていて驚きました。最初からなかなかあんなふうではなかったのでしょうか、きっと。

○市長（池田 豊） どうですかね。

○玉祖小学校教務主任（兼廣 徹） 今の5年生は、昨年度からしっかりとロイロノートを活用していますので使いこなしています。今の6年生も2年前から使っていますので、ロイロノートについては、本当に子どもたちのほうが先生に教えられるのではないかとというぐらい使い方を理解していると思います。

○委員（温水祥代） ありがとうございます。

○市長（池田 豊） どうもありがとうございました。私も温水委員と一緒に、子どもたちが明るく緊張せずに授業をやっていることにもびっくりしました。本当にのびのびと授業をし

ているので、今日なんか大勢で押しかけて、子どもたちにプレッシャーかけてはいけないなと感じておりましたが、やっぱり先生方の日ごろの接し方だと思うんですね。特に玉祖小学校はここ1年、明るくなったような気がします。本当に学校の先生方のおかげだと思います。今日も子どもたちがしっかり挨拶をしてくれていました。ありがとうございます。小松委員はどうですか。

○委員（小松宗介） 最初に市長さんも言われたように、私は古い人間だからついていけないなど多少感じていました。でも、この資料を見ていると、低学年でやること、中学年でやること、高学年でやることというのがきちんと書いてあるので、せっかくやっているのであれば低学年、中学年も見てみたかったなと思いました。子どもたちは、おそらく私たちよりもすごく飲み込みが早くて、私がスマートフォンを使っていると、5歳の孫がきて平気で私より上手に扱うんですね。だからそういう意味では、ICTを用いた授業というのは子どもたちの中に入りやすいのかなと思いました。

ところで、授業の中で使用されるいろんな資料は、先生方が自分で用意するのか、それとも最初から用意されているのでしょうか。授業の仕方というのは指導要領などで決まっているのではないかとは思いますが、全部自分で資料を作って、あのようにするのであれば結構大変だなと思いました。また、タブレットで予習をすると答えが既に出てしまっているのではないかなとふと思いましたね。あとは、教科書と使っているタブレットの役割というのを子どもたちがどのように理解しているのかなと少し思いました。

それと、教育長が言われていましたけれども、タブレットを置いたら机の上が狭くなります。ICTとは関係ないかも分かりませんが、もしあのような授業やるのであれば、タブレットの置く位置とか、教科書やノートを置く位置とか、それぞれにきちんとこういうふうに置きなさいねというのを事前に教えておけば、おそらく使いやすく学習しやすくなるのではないかなと感じました。特に筆箱なんていうのは邪魔になるのではないかなと思うので、最初から机の中に入れておけばいいのかなと思いました。

タブレットを持って帰って家で復習するときは、おそらく思い出しながら楽しんでもいいのではないかなと思いましたね。

○市長（池田 豊） 資料は前もって先生が作られているのですか。

○学校教育課長（山本純也） 今日の授業で使用されていたプレスとか溶接とかの写真は、教科書にあった資料をもとに、おそらく先生が事前に写真を撮られて、それを自分でトリミングして用意されたのだと思います。これまでも資料を貼るということは当然していたと思いますが、もし教科書を使わないという前提で、今日の授業みたいなことをやろうと思えば、全員がやっていたかどうか分かりませんが、個別で作業させるために、あの写真をすべて子どもたちの人数分用意する必要があります。それは写真を撮る手間よりは随分手間がかかるので、写真を撮るくらいであれば、おそらく教員はそんなに苦労がなく処理するのではないかと思います。

○委員（小松宗介） タブレットに出てくる画面は、もう自然と出てくるようになっているのですか。

○学校教育課長（山本純也） それは、おそらく教員が事前に準備しておいて、それをロイロノートの中に自分で順番にこれを出そうというのを入れ込んでおいて、それを順番に提示しているのではないかと思います。

- 委員（小松宗介） だからここのボタン押したら画面に出ますよと。
- 学校教育課長（山本純也） そうです。
- 委員（小松宗介） 画面に出ない人は手を挙げてくださいますと。
- 学校教育課長（山本純也） そういうことです。
- 市長（池田 豊） 先生は大変ですね。
- 教育長（江山 稔） 教員には板書のデザインがそれぞれ頭にあって、昔で言ったら板書計画になりますが、それを黒板に書くのか紙を貼るのかになります。写真を貼ったり、今日であれば下に写したりされていましたが、今は話題になっていましたが、昔は写真を1人ずつ全員に渡して並べ替えていたのが、今は画面上でできるようになりました。
- ところで、タブレット使用時の机の上の約束事とかは、何かありますか。
- 玉祖小学校教務主任（兼廣 徹） 一応、タブレットを使用しないときは、前のほうに置くとか、横にかけるところがあるので、そこにかけたりとか、そのような工夫はしています。タブレットを使用するときに、学校全体で必ずここに置くというようなことは、厳密には決めていませんでしたので、今の御意見を参考にさせていただきたいと思います。
- 委員（村田 敦） 将来的には机の規格とかが変わってくるのでしょうか。
- 学校教育課長（山本純也） 今のところそういうことは聞いていないので、すぐにといいことはないだろうと思っています。今できる工夫としては、先ほど兼廣先生や小松委員さんも言われたように置く位置を決めること。いかに机上を整理させるかというのも、今の子どもたちには、あえて指示していかなきゃいけないのかなと思います。
- 市長（池田 豊） おそらく、メーカーがそれに合わせたものを作るとなると思うんですね。だから、時代に合わせて後ろのロッカーなどの大きさとかも全部見直したり、いろいろ授業の仕方なども変わっていくのだらうと思っています。
- それと、先生方にお聞きしたいのは、どんな科目が効果が高いですかね。
- 玉祖小学校教務主任（兼廣 徹） やはり算数とか社会とか理科とか、わりと自分の考えを図に表して、表現しやすいもののほうが効果が高いのではないかなと思っています。でも、本校では国語でも実験的に使ってみようとして現在やっていますので、1年ちょっと取り組んでみて、そこはしっかりと考えてみたいと思います。
- 市長（池田 豊） 学力テストが何年かに一度行われていますが、おそらくこれが何年か経ったときに、タブレットの導入の効果が有った、無かったという議論がされるのであろうと思いますね。
- 委員（小松宗介） 試験などもタブレットで全部やれるようになりますか、最終的には。
- 教育長（江山 稔） 今はまだ紙ですが、いずれそういったタブレット上で回答するようになるのではなかろうかと思っています。
- 委員（小松宗介） 学習ノートとか書いていたけれども、タブレットにもちゃんとメモする機能があったら、全部そこに書けますよね。
- 教育長（江山 稔） 英語などは、タブレットに自分の声を録音して、自分の言葉を聞くことなんかもできます。
- 委員（小松宗介） タブレット一つで済んでしまいますね。
- 教育長（江山 稔） タブレットの利用で役に立つのは、私は体育の教員なので、体育でいうと自分の演技を撮ってすぐ見ることができます。それを動画で撮るのか、連続写真にして

撮るのかにもよりますが、跳び箱であれば、ここに着手しているとか。そういうことを今までであれば、生徒がやるのを撮影してみんなに見せていたら授業が止まっていたと思いますが、今はグループで撮りあいをしたらすぐできるという利点もあります。

○市長（池田 豊） 変わりますね。

○委員（小松宗介） 先日の教育委員会会議で親のことを話していたのですが、今までは親がいろいろ勉強を見てやったりできたのが、できなくなっていくのではないかと思いましたがね。それと、子どもに興味を持っている親と、子どもに興味を持っていない親では差がついてしまうのではないか。そういうところはちょっと危惧するところですね。

○教育長（江山 稔） 持って帰らせたときに親御さんから何か意見とかはありましたか。

○玉祖小学校長（大谷圭二） 親御さんからの意見はなかなか把握できていない部分もあります。本校ではちょっとその辺では遅れている部分でありまして。

○委員（小松宗介） そうなんですか。何かすごく進んでいるような気がしましたが。

○玉祖小学校長（大谷圭二） 授業の中での活用は進んでいます。それは、今日見ていただいた久保田だけではなくて、他の学年の先生方たちもお互いに研修意欲が高いです。しかし、授業での活用は進んでいます。家庭に持ち帰らせてという部分ではやっぱりちょっと遅れがあります。そこは課題だと思っています。親御さんの感想、意見などについては、集約はできていません。

○市長（池田 豊） 教育長がおっしゃったけれども、体育の授業とか家に持って帰って家族に見せることができる。

○教育長（江山 稔） できます。

○市長（池田 豊） いいですね。勉強はテストの点などで見ることができるけど、体育などは授業を見に行かないといけないので。

○教育長（江山 稔） その場に行かないと今までは見られなかったけれども、今はタブレットに撮って持って帰って親御さんに見せることができ、これができるようになったと話題にすることもできます。

○市長（池田 豊） すばらしいなあと思いますね。本当にこうやって現場を見たら変わるし、朝、子供たち見送っていたら、いろいろ思いつくことがたくさんあります。やっぱりこうやって現場を見ないと分からないことも多いと思います。

○委員（村田 敦） 先ほどの教材の件ですが、おそらく教科書などもそういったタブレット対応のものが増えてくると思いますが、先ほどの授業で使うような資料なども例えば教科書から引用するとか、そういうことは将来的には可能なのですか。單元ごとに作るとなると、労力は減ったとは言っても大変だと思いますが。

○学校教育課長（山本純也） デジタル教科書というのが今作られていまして、これがまだ当然無償ではないので、なかなか全ての学校、全ての子どもたちにというわけにはいきませんが、現在、実験的に検証のために学校がそれぞれ使っています。このデジタル教科書があれば、教科書がデータとして入っているので、それを加工して使用すれば早いのかなとは思いますが。しかし、デジタル教科書が全部に普及しているという状況ではありません。

○委員（村田 敦） あと、最初に見たとき、大画面にルーブリックが出ていましたね。あれの1番大変なことは評価基準を作ることだと思いますが、あれは既製のものですか。

○学校教育課長（山本純也） あれは久保田先生自身で、学習指導要領を基に、今の子どもの

実態に合わせて作られたものではないかなと考えております。あれは、村田委員さんがおっしゃったように1番の肝というか、評価をきちんと教員が明確にしていないと、授業の目的を達成できないので、これはICTとは関係なく、毎時間というか単元を通してしっかり評価基準を作っていけないといけないものになります。これはもう教員がずっとやってきていることなので、そこは教員の仕事だと思っています。

○市長（池田 豊） これから教材も変わるでしょうね。

○学校教育課長（山本純也） そうですね。大きく変わってくる可能性があると思います。

○市長（池田 豊） この間、文部科学省と話をしたときに、しっかり教材への予算を打ち出そうとしているから整備してくれという話を聞いてきました。おそらく義務教育の教材の予算をしっかりと打ち出すのだらうと思います。

防府はいち早くタブレットを導入しましたので、いろんな面でも防府が先駆的になるように、おそらくここまできたら流れは変わらないと思いますので。以前の電子黒板のときはすぐ止まってしまったけれども、今回はこのまま行きそうな気がしますから、しっかり対応していかななくてはいけないと思っています。

○教育長（江山 稔） 学校からは、タブレットを家に持って帰ったときに、家のWi-Fiにつなぐ手順を書いたものを渡しています。その手順に沿って、家のWi-Fiのパスワードを打ち込んだら、家のWi-Fiで使用できます。Wi-Fiに対応していない家は、本市のタブレットはLTEを利用して家で使用することができます。全員が平等に学校でも家でも使うことができます。

○市長（池田 豊） さっきありましたけど、子ども自身が自分でつなげられるのですね。

○教育長（江山 稔） ゲームなどでやっていますからね

○市長（池田 豊） でも、家庭環境で大きく変わりますね。

○教育長（江山 稔） 学校のほうから学校だよりなどで声掛けはしていますが、お父さん、お母さんの関心度というか、ちゃんと見ていただけるところと、全然関心がないのでは違ってくるかもしれません。子どもたちには、授業でしっかり使ってもらって、これも調べてみようとか、こういうことができるんだっていうことをしっかりと教えていきたいと思っています。

○委員（小松宗介） 宿題もタブレットを使うようになるのですか。夏休みの宿題とか春休みの宿題とか。

○教育長（江山 稔） 今はどうですかね。

○学校教育課長（山本純也） そうですね。宿題に利用している学校もあります。夏休みなどに限らず、調理実習などはなかなか学校で行うことが難しかったので、家庭で調理して、その調理したものを写真に撮って送りましょうと宿題を出すと、家庭で作った料理の写真がリアルタイムで教員の手元に送られてきます。こうした、家庭でしっかりとかわっていただいた作品やできたものが、教員の手元で見られるのですごくいいなと思っています。プリントとかだけではなくて、そういう効果もあるなと思っています。

これからは、低学年の夏休みの日記などが、ひょっとしたら今まで絵を描いていたのが、写真に文を書いてもらうとかなるかもしれません。そうすると、作文をしっかり鍛えていけるというか、写真もきっと子どもなりの構図があると思うので、それを評価するかどうかは別として、子どもが何を見て感動したのかというのを知る手がかりにはなるのかなと思います。そういう良さも今後出てくるかなと思います。

○委員（小松宗介） これを使っていてデメリットっていうのはないのですか。

○学校教育課長（山本純也） 今日の玉祖小学校の授業を見る限りでは、先ほど村田委員さんとも言われていましたが、「習うより慣れよ」ではないですが、どんどん子どものほうがスキルアップしているというか、あれをして次これをしなさいとかいう指示がありませんでした。「提出しましょう」くらいの指示で済むので、そういう意味のマネジメントはできているなと思いました。

導入前はいちいち動きが止まって、タブレットの扱い方に授業の時間が割かれることを一番心配していました。

○委員（小松宗介） それは、小学校の低学年でやるということになっていますよね。1年、2年で扱い方をマスターして、3年、4年、5年、6年で自由に使いこなせるようになる。

○学校教育課長（山本純也） 去年から導入して今年から本格的に使っていますので、スキルの積み重ねがどんどんできていきますので、今の小学1年生が中学校に上がるころは、スキルが想像できないくらい上がっているのではないかなと思います。

○委員（田村純子） 親がスマートフォンをどんどん使っていますよね。ふるさと花火の様子もすぐにユーチューブに上がりました。だから、デジタル機器に対して拒否感がある親の世代ではないと思うので、玉祖小学校でもしっかり学校だよりなどで啓発されたらすぐに一緒に、親子でいろんなものができたりするのではないかなと思いました。玉祖小学校は参観日もよく見に来ておられますので、しっかりアピールをしたらいいなと思います。

○市長（池田 豊） 字を書く機会は減らないのですか。

○学校教育課長（山本純也） それも懸念していましたが、今日の玉祖小学校の授業がすばらしかったのは、5年生だからできたのかもしれませんが、上手にコントロールできていました。子どもたちに最初だけ「ノートに書きましょう。」と、先生が指示されていましたが、あとは自分たちで黒板を見ながら必要なものはメモしていました。タブレット端末がなかったときも多分そうしていたと思いますが、あれが従来の授業の子どもたちの姿だと思います。タブレットだけではなく、きちんとノートを取っていましたから。そういう意味では、相対的に見たら減っているのかもしれませんが、格段に減ったという印象は今日はありませんでしたね。学校ではその辺どうですか。

○玉祖小学校教務主任（兼廣 徹） そうですね。やっぱりノートに取るということはすごく大事だと思います。ノートはすぐに見返すことができますし。そういう意味では、タブレットだけに書き留めていると記録はされていますが、見返すときにはわざわざ機械出さないといけないですから。そんなことを考えたら、両方のいいとこ取りではないですけど、ノートとタブレット両方を活用して進めていくことを、本校では力を入れてやっているところです。

○市長（池田 豊） すばらしいですね。教育長何かありますか。

○教育長（江山 稔） おかげをもちまして、いろいろな事例を教えていただきましたので、これから教育委員会では、それをいろいろと活用して、各学校に広めていきたいと思っています。

また、通信やいろいろな部分もこれからさらに研修しないといけないと思っていますし、さっき言われた家庭への啓発もしっかりやっというと考えております。

○市長（池田 豊） その他何かありますか。

本日は本当にすばらしい授業で、改めまして玉祖小学校の大谷校長先生、また教務主任の兼廣先生にも感謝申し上げたいと思っています。

本日は、現場を見て皆さんの有意義な御意見が伺えたと思います。今後も時代はどんどん変わっていきます。まずは義務教育をしっかりしないといけないと思いますので、また御意見などいただければと思います。本日はどうもありがとうございました。

じゃあ、事務局にお返しします。

○教育部長（杉江純一） それでは、以上で令和3年度防府市総合教育会議を終了します。

本日はありがとうございました。

午後2時55分閉会